

建築主：桜井氏
 設計：横河健／横河設計工房
 施工：糸平興産株式会社
 所在地：館山市正木字干潟1256-1

海岸線に建つ別宅の作法

桜井邸／多面体の屋根 館山



建物を抜けて感じ取れる館山の海(東側外観)

(撮影/新建築社)

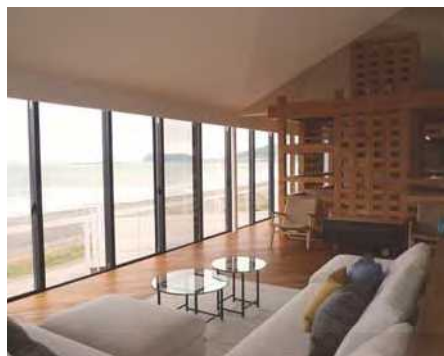
平面形はL字型で屋根が30ほどの三角形からなる多面体をしている。その形が直接天井形状に反映されており、写真を見ると、三角形に分割された任意曲面の醸す内部空間が強烈だ。だが、実際に中に入ると、外の海に自然と目が行く。多面体の屋根はそれ自体の存在を主張することなく、人のいる空間をやさしく包んでいる感覚を与えてくれる。

この家は海を見るためにつくられているかのようだ。ピロティで主階を2階に持ち上げているために、真っ直ぐ見るとちょうどそこに水平線がある。上下動線の階段は、木造立体格子の箱になっている。作者が「環具(環境をつくる家具)」と呼ぶもので、建築と家具の中間的なものといっている。立体格子の環具は、構造的にも役割を果たし、リビングとダイニングを隔てつつないでいる。幅12mの大開口を遮ることなく、リビングにいてもダイニングにいても広い海がそこにある。

この家は、東京に本宅を持つ人の別宅で、館山湾に平久里川が

注ぐ付近の海岸線に建っている。南房総地域は、館山道が通って二地域居住の一方の居所としてほどよい場所になった。誰もが都会にはない海を別宅に求めるあまり、海を一望できる海岸線を独り占めしかねない。海岸線は古来から誰かのものではなく、そこに暮らすみんなでその恩恵を分け合うのが習わしとなってきた。その点、この住宅は、規模が大きいわりには、周りに対して開かれた構えであり、地上レベルではピロティの間から、海に抜ける視線が守られている。以前から暮らしてきた人たちと風景をシェアしようとする配慮がいい。

(岡部 明子)



2階リビングより木造立体格子と館山の海を望む



ロフトからキッチン、ダイニング、リビングを見通す

(撮影/横河 健)